

# 第6学年 国語科学習指導案

3組 児童 男子15名 女子15名 計30名 指導者 菊池 知子

## 1 筆者のものの見方を生かして、名画鑑賞会を開こう

教材『鳥獣戯画』を読む 著者名 高畑 勲 「この絵、私はこう見る」 (光村図書6年下)

<身に付けたい力>

- 絵と文章を対応させ、筆者の表現の仕方に着目して読み取る力
- 文章を読んで考えたことを発表し、自分の考えを広げる力

言語活動

「南城美術館」鑑賞会  
を開く

## 2 単元について

第5・6学年における読むことの目標は「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。

本単元は、「読むこと」の絵と文章とを対照させながら効果的に読む読み方や、事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながらかんたたりする学習を、『南城美術館』鑑賞会を開く』の言語活動にて活用することを意図して設定した。また、南城小美術館を開き、6年生に名画についての自分のものの見方を伝えるという目的を念頭に置き、学習を展開していく。

本教材「『鳥獣戯画』を読む」は、筆者の絵に対する解説と解釈・評価が述べられている解説文である。筆者のものの見方（解釈・評価）とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできる教材である。また、絵と文章を照らし合わせて読むように書かれており、「文章を図表やグラフ、絵などと合わせて読む力」を育てたり、「書き出し・文末表現・話し言葉・評価の言葉」など特徴的な書き方がされており、絵の魅力を伝えるための筆者の工夫を学んだりすることのできる教材である。

指導にあたっては、筆者のものの見方をとらえさせるために、「着眼点、評価の仕方」を視点とし、絵と文章を照らし合わせながら読み取らせていく。また、自分のものの見方を伝えるために、「書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用」を視点とし、筆者の表現の工夫を読み取らせ、活用できるようにしていく。グループ交流では、同じ題材でもいろいろな受け止め方があることを知り、友達の考え方をすることで自分のものの見方を広げるとともに、交流することの良さを実感させていく。

### 【単元の目標】

- 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたることができる。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げることができる。

### <単元の評価規準>

#### 国語への関心・意欲・態度

- ・絵巻物や「ものの見方を広げる」ことに興味を持ち、絵の鑑賞文に生かすために、筆者の着眼点や評価の仕方・表現の工夫について読もうとしている。
- ・絵画に興味を持ち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。

#### 読む能力

- ・絵と文章を照らし合わせながら、筆者の着眼点や評価の仕方、表現の工夫をとらえている。(1)ウ
- ・文章や絵画、友達の鑑賞文について、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(1)オ

#### 言語についての知識・理解・技能

- ・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。(1)イ(オ)

### <児童の実態>

子ども達はこれまで、説明的な文章の学習として「新聞を読もう」「天気を予想する」では、記事の比較、見出しや写真から記事の概要を予測する読み方や、資料を使った効果的な説明の仕方を学習してきた。また、「感情／生き物はつながりの中に」では、文章の構成や内容を押さえ、筆者の意図に対しての自分の考えを持ちながら学習してきた。これらの学習を通して、「読むこと」については、文章構成や要旨をとらえ、筆者の考えに対し自分の知識や経験、読書体験に引き寄せて自分の考えをまとめることで、自分の考えを明確にして読むことができるようになってきた。しかし、筆者の意図に対する自分の考えを自分の言葉で表現することが、まだ十分とはいえない。

また、子ども達はペアやグループでの学習には抵抗なく取り組んでいる。だが、グループ学習では、友達の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手としている児童もいる。

3 学習指導計画（全9時間）

＜本単元における必要な既習事項＞

- ・要旨
- ・筆者の工夫
- ・自分の考えを明確にしながら読む

| 時  | 目 標  | 学 習 活 動  | 評価規準（評価方法）  |
|--|--|--|---|
| <b>第一次 単元の学習のねらいを知り、学習の見通しを持つ</b>  |  |  |   |
| 1  | 「『南城美術館』鑑賞会を開く」という学習のゴールを知り、学習計画を立てることができる。              | ○学習課題を設定し、単元の見通しを持つ。<br>・絵やモデル文に触れ、今後の学習のねらいを知る。<br>・『鳥獣戯画』を見て、絵から読み取ったこと、感じたことを文章に表し、自分の感じ方と比べて教材文を読み、筆者のものの見方に関心を持つ。<br>・並行読書の仕方を確認する。 | 【関】絵巻物や「ものの見方を広げる」ことに関心を持ち、「『南城美術館』鑑賞会を開く」という学習のゴールを知り、学習の見通しを持つようとしている。（活動の様子・ノート） |
| <b>第二次 筆者の考えたことや名画を鑑賞しての、自分の考えを読み深める。</b>  |  |  |   |
| 2  | 絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者のものの見方をとらえることができる。                    | ○絵と文章を照らし合わせながら「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者のものの見方をとらえる。<br>・筆者の着眼点や解釈の仕方を視点とし、読み取る。   | 【読】絵と文章を照らし合わせ、筆者の着眼点や解釈の仕方の工夫を読み取っている。（発言・ノート）                                     |
| 3  | 筆者の表現の工夫を押さえることができる。                                     | ○「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の表現の工夫を押さえる。<br>・書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用を視点とし、読み取る。  | 【読】書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用を視点とし、筆者の工夫を読み取っている。（発言・ノート）                              |
| 4  | 筆者のものの見方を手本としながら、『鳥獣戯画』を鑑賞し、鑑賞文にまとめることができる。              | ○筆者のものの見方を手本としながら、『鳥獣戯画』を鑑賞して、自分の見方を鑑賞文にまとめる。<br>・筆者の着眼点や解釈の仕方、書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用をもとに、自分なりの言葉でまとめる。                                 | 【読】『鳥獣戯画』を鑑賞し、筆者のものの見方を手本に、自分の見方を鑑賞文にまとめている。（発言・ノート）                                |
| 5  | 『鳥獣戯画』の鑑賞文を交流し、ものの見方を広げることができる。                          | ○『鳥獣戯画』の鑑賞文を交流し合う。<br>・筆者のものの見方を視点とし、互いのものの見方や表現について話し合い、自分の考えを広げる。  | 【読】文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げる。（発表・ノート・付箋紙）   |
| 6  | 筆者のものの見方を生かして、名画を自分の見方で鑑賞することができる。                       | ○さまざまな名画を鑑賞し、自分の見方を鑑賞メモに表す。<br>・着眼点や解釈、評価を視点とし、メモに表す。  | 【読】名画を鑑賞し、絵から読み取ったこと、感じたことを鑑賞メモに表す。（ノート）  |
| 7  | 好きな名画を選び、自分のものの見方で、鑑賞文にまとめることができる。                       | ○自分の好きな名画を選び、自分の見方を鑑賞文にまとめる。<br>・着眼点や解釈の仕方、書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用を工夫し、自分なりの言葉でまとめる。<br>・誤字脱字、主述の関係、着眼点や解釈、評価の書き分け、表現の工夫を確かめながら推敲する。     | 【読・言】自分の好きな名画を鑑賞し、自分なりに表現を工夫して、鑑賞文にまとめている。（ノート・カード）                                 |
| 8<br>本<br>時  | 名画の鑑賞文を交流し、自分の考えを広げることができる。                              | ○名画の自分なりの見方を伝え合い、考えを広げることができる。<br>・絵と鑑賞文を照らし合わせながら、自分のものの見方を伝える。<br>・互いの着眼点の良さや表現の工夫を視点とし、伝え合い、自分の考えを広げる。                                | 【読】名画の鑑賞文を交流し、自分の考えを広げている。（発表・ノート）  |
| <b>第三次 「『南城小美術館』鑑賞会を開く。</b>  |  |  |   |
| 9  | 「南城小美術館」鑑賞会を開き、自分のものの見方を多くの友達に伝えることができる。<br>学習を振り返りまとめる。 | ○「南城美術館」鑑賞会に6年生を招く。<br>・絵と鑑賞文を照らし合わせながら、自分のものの見方を伝える。<br>○学習の振り返りをする。<br>・自己評価する。<br>・これからどんな場面で活用していくか考える。                              | 【関】絵と鑑賞文を照らし合わせながら、自分のものの見方を伝えている。（発表）  |
| <p>＜教材の発展＞</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">6年「言葉は動く」</span> <span style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➡</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">中1年「ダイコンは大きな根？」</span> </p> |  |  |   |

#### 4 本時の指導（8 / 9）

(1) 目標

○名画の自分なりの見方を伝え合い、自分の考えを広げることができる。

(2) 本時の指導にあたって

- ・視点にそった交流ができるように、着眼点や表現の工夫を互いに押さえた上で、鑑賞文を伝え合う。
- ・新たな絵の見方の良さや表現の工夫に気付く活動になるよう、交流Ⅰ・Ⅱは異なる相手とグループを組むようにする。

(3) 展開

| 段階                   | 学習活動・学習内容   | 指導上の留意点・評価   |
|----------------------|---|--|
| つかむ・見通す<br>3分        | <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>名画の見方を伝え合い、自分の考えを広げよう。</p> </div> <p>2 課題解決の見通しを持つ。</p> <p>○交流の視点を確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着眼点…どの部分の何について</li> <li>・評価の言葉…どのような言葉で評価するか</li> <li>・表現の工夫…書き出し、文末表現、話し言葉、評価の言葉、引用の工夫</li> <li>・書き方…全体を見て書く⇄部分を詳しく書く<br/>事実(絵に描かれてあること)と<br/>考え(自分の感じたこと)の区別</li> </ul> </div>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画にそって学習課題の確認を行う。</li> <li>・「紹介する→メモをする→伝え合う→書き残す」を自分の見方を広げる過程として示す。</li> </ul>  |
| 深める<br>学び合いの場<br>35分 | <p>3 学び合う</p> <p>(1) グループ交流Ⅰ</p> <p>○鑑賞会をする。(5人1組)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【鑑賞会の進め方】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①名画を紹介する。</li> <li>②友達の絵の見方を聞いてメモを取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の見方の良さ</li> <li>・表現の工夫</li> </ul> </li> <li>③質問や感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の見方の良さと表現の工夫</li> <li>・質問</li> </ul> </li> <li>④広がったことを書き残す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の見方との共通点</li> <li>・自分の見方との相違点</li> </ul> </li> </ol> </div> <p>(2) グループ交流Ⅱ</p> <p>○Ⅰと異なるグループで交流する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点にそった交流ができるように、着眼点や表現の工夫を互いに押さえた上で、鑑賞文を聞き合う。</li> <li>・付箋紙に絵の見方の良さと表現の工夫を記入し、友達の見方の良さを伝えやすくする。</li> <li>・新たな絵の見方の良さや表現の工夫に気付く活動になるよう、交流Ⅰとは異なる相手とグループを組むようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>絵の見方の良さを伝え合い、自分の考えを深めることができる。(発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個への支援：友達の鑑賞文を手元に置き、交流できるようにする。</li> </ul> </div> |

|   |  |  |
|---|--|--|
|   | <p>(3) 全体交流</p> <p>○グループ交流で自分の見方が広がったことを伝え合う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の絵の見方の良さに気づくことで、自分のものの見方が深まったり、表現の参考になったりしていることを確認する。</li> <li>グループ交流後、さらに全体で交流することにより全員が意見を述べる機会を保證するとともに、ものの見方が広がるようにする。</li> <li>再度、絵を良く見ることで、自分の見方の広がりを実感できるようにする。</li> </ul> |
| <p>ま<br/>と<br/>め<br/>る</p> <p>7<br/>分</p> | <p>4 学習のまとめをする</p> <p>○学習したことを振り返る。</p> <p>5 本時の学習を振り返る</p> <p>(1) 自己評価をする。</p> <p>&lt;自己評価の観点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の見方の良さを見つけられたか。</li> <li>友達の考えから自分の見方を広げられたか。</li> </ul> <p>(2) 学習感想を書く。</p> <p>&lt;学習感想の観点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これからの学習に生かしたい点</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、新たな本や文章、絵画に出逢った時に、筆者や友達のもの見方の伝え方の工夫を取り入れながら自分の考えを表していくことを、黒板を振り返りながら確認する。</li> <li>今日の学習を通して、身につけた力が実感できるように2項目の観点で振り返りをさせる。</li> <li>次時は、『『南城小美術館』鑑賞会』を開催することを確認する。</li> </ul>  |

## 5 板書計画

筆者のもの見方を生かして、名画鑑賞会を開こう

**課** 名画の見方を伝え合い、自分の考えを広げよう。

活用できること

⇨ 交流の視点

- 着眼点：どの部分の何について
- 評価の言葉：どのような言葉で評価するか
- 表現の工夫：書き出し 文末表現 話し言葉

評価の言葉 引用の工夫

書き方：全体を見て書く ⇑ ↓ 部分を詳しく書く

事実(絵に描かれてあること)と考える

(自分の感じたこと)の区別

つきたい力

- 友達の絵の見方の良さを見つける。
- 友達の考えから自分の見方を広げる。

**鑑賞会の進め方**

- ① 名画を紹介する。
  - 絵と文章を照らし合わせる
- ② 友達の絵の見方を聞いてメモを取る。
  - 絵の見方の良さ
  - 表現の工夫
- ③ 質問や感想を伝え合う。
  - 絵の見方の良さと表現の工夫
  - 質問
- ④ 広がったことを書き残す。
  - 自分の見方との共通点
  - 自分の見方との相違点